

20231202 初狩・笹子史跡巡り

島崎

1、 緒項

実施日：令和5年12月2日（土）

参加者：15名（役員5名：松本様、小俣様、武田様、折笠様、島崎）

時 間：集合8：20 大月駅浜野屋前バス停 解散16：30 大月駅

2、 コース 22,000歩を越えました。

8：20：主宰・会長挨拶、コース説明、記念撮影 8：35：①大月駅バス発

9：13：②新田バス着 ¥840円 徒歩移動 10：30（遅い方11：10）③矢立の杉着

9：15：矢立の杉発 徒歩移動 12：45（遅い方12：55）④黒野田本陣着 13：30：本陣案内

14：05：本陣発 14：28：⑤JR 笹子駅発 14：34：⑥JR 初狩駅着 ¥199円 （15：00）：⑦首塚着

15：30：首塚発 16：04：⑧唐沢バス停発 16：25：①大月駅着 ¥510 16：30 終りの挨拶



史跡巡りコース

3、 内容

(1) バス移動 大月駅—終点新田バス停



写真1 大月駅バス出発前



写真2 終点新田バス停にて

(2) 明治天皇陛下野点跡

黒野田本陣山崎様の話では、昔は茶屋が三軒あったそうです。



写真3 明治天皇野点跡



写真4 記念碑



写真5 説明板



写真6 近くの石像

(3) 矢立の杉



写真7 矢立の杉

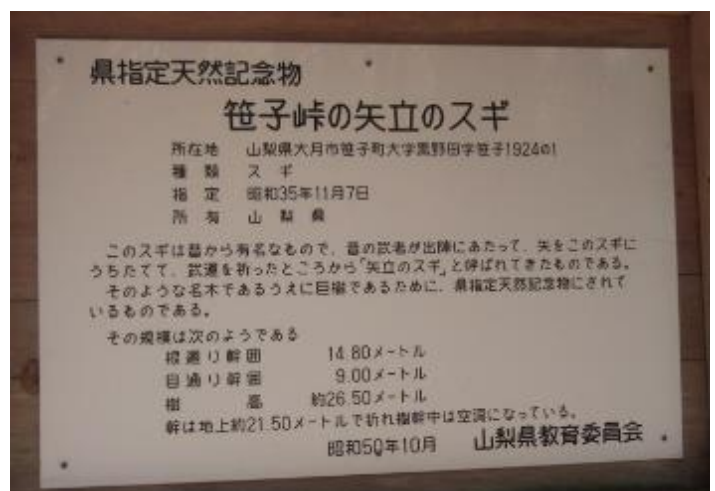


写真8 矢立の杉の説明板

笹子三寸道、かなり狭い道です。側面に障害物（木・崖）があると、馬で通れるか？



写真9 矢立の杉記念碑・音声ガイド



写真10 笹子の三寸道

(4) 矢田の杉の帰路

矢立の杉帰路にて、この後10分後に山梨県一周駅伝に会い応援しました。残念ながらこの地区で大月市はラス前でした。



写真11 矢立の杉入口にて



写真12 笹子帰路の石塔

(5) 黒野田宿

笹子に本陣は三つある。この地区は自動車道路にするために、本陣と反対側の家は曳家をしまった。曳家側は早く傷んで建て直しています。残っている家は本陣の他に数軒だけです。江戸時代は十四・五軒宿屋がありました。ここは本陣ということで大名や幕府の役人などの身分の高い人の宿泊所です。そのため昔はこの部屋の外に式台があった。間口10間奥行きが七間の建屋で、昔二階はがらんどろで養蚕に使っていた。この一帯は養蚕をして、年貢をお金で払っていた。水田は少なくお米は買っていた、甲州一揆天保騒動はお米を買えなくて熊野堂（現春日居町）の米問屋にお米を貸して下さいとお願いに行ったのが始まり。それが峠を越えたら暴動になっていた。

この一帯は養蚕と人を泊めることで賃稼ぎをして生計を立てていた。

宿場で上段の間と床の間と門を造ってよいと決められていたのは、本陣だけです。この宿の脇本陣は向かいにありました。今の家とは違います。斜め向かいに今は家がありませんが、天保騒動騒動の首謀者の一人の泰順先生の家があった。いと屋さんという家で、みんな天野姓です。

この本陣の大名が泊まる上段の間は一段高くなっていて、門から入って梟の間の入口（今は無い）を通して入れた。明治天皇陛下は門から真っ直ぐ入り、蔵座敷に泊まった。



写真 13 門の脇の記念碑



写真 14 門



写真 15 上段の間

本陣の部屋は8畳が3部屋あり、部屋と玄関の間は中廊下が有って、玄関側は納戸・奥納戸の暗い部屋でしたが、リホームして生活空間にしている。大名が泊まる部屋は門から一番奥で一段高くなっており床の間に掛け軸が掛かっている。次の間は梟の欄間がある梟の間。もう一つの部屋は鯉の間で鯉の欄間が有った。明治時代運送業をしていて人の物を預かっていたときに、窓から泥棒が入り鯉の欄間を壊された。子供の頃には残っていたが、リホームで壊れた欄間を外した。



写真 16 貴賓室と梟の間の間の欄間



写真 17 梟の間



写真 18 鯉の間

【蔵座敷】

蔵座敷は天皇陛下を泊めて以来使って無い。倉庫になっていたが底が抜けそうになったのでリホームした。基本的に当時の物を使い、再現したところもあるが、一部新しくしたところもある。明治天皇がお泊まりになった時は 8 畳間が二部屋あったが、一部屋は改築して檜のお風呂などになっている。

明治天皇陛下が泊まった証拠「行在所（あんざいしょ）」。明治天皇陛下が泊まる場所を「行在所」という。天皇陛下がお出かけすることを「行幸」という。皇后陛下がお出かけは「行啓」という。お二人がお出かけになる場合は「行幸啓」という。この時は明治天皇陛下お一人がお泊まりになられた。行在所を書かれたのは勝海舟のお友達の山岡鉄太郎、山岡鉄舟です。明治 45 年に北都留郡のお偉い方が、山岡鉄舟が書いた事を照明する裏書きを書いてくださった。

* 山岡鉄舟は江戸城開城の幕臣代表だった方。西郷の頼みで明治 5 年より 10 年の約束で侍従として明治天皇に仕える。



写真 19 蔵座敷（明治天皇陛下宿泊）



写真 20 「行在所」山岡記述板



天野姓は多いのは、昔戦国時代に遠江国の犬居城主だった天野宮内左衛門景信という人が、家康に追われ勝頼を頼って甲斐国に逃げてきた。勝頼が亡くなったので北条を頼ったようですが、最終的に徳川により笹子の線路の反対側に家を構えた。その事は戦前に本になっている。今屋敷跡はお稲荷さんになってますが、苔むした記念碑があります。この宿場を造るに当たって天野家が家を構えたと想像するが、それで明治の時に名字を付ける時にこの地域の人は皆天野を名告った。

この家は、家号か名字か分からないが江戸時代には殿村を名告っていた。明治に役所に届ける際に天野にした。遠江の天野さんにより笹子駅より上側は殆ど天野性です。大月市は天野性が多い、吉田の忍野も天野が多いですが関係あるか分かりません。さらにたどると鎌倉時代に伊豆の天野さんが遠江に下って、天野性を広めたと聞いた事がある。

【蔵座敷二階】

写真は正徳元年に道中奉行から出された高札です。高札は幕府が庶民に通達するためのもの。現在天野工業が在るあたりに高札場があって、高札板がいっぱい掲げられていた。墨で書かれていて薄くなると墨継ぎをしていた。江戸時代、法令が遵守される間はずうっと掲げられていた。どこの高札場にも、高札板が十数枚掲げられていたと思います。明治になってこの家で高札板全部を引取った。話によると蔵にいっぱいあったが、1枚を除いて全部焚き付けにしたそうです。写真の高札は「駄賃ならびににゅうしょく荷物のしだい」運搬に対する重量・値段の取り決め有名なのはキリシタン禁令なども高札で知らせた。



写真 21 高札板

天皇陛下から下賜されたもの。

50 円、かわらけ(素焼き)の皿 2 枚、白い絹 2 疋。

*かわらげ、場所によっては金杯が残っている家も在るそうです。

* 50 円は、明治元年白米換算 238,000 円 明治教員初任給換算 100,000 円

明治 34 年企業物価指数 74,500 円



写真 22 50 円

宿割りが書かれたものがあるが、バラバラになるので見せられない。350 人で来られたそうです。この集落全部を使って泊まった。どこの家にだれが泊まったか書かれていて、例えば笹一の家には伏見宮様が泊まられた。

天皇陛下が来られる前には準備する物の通達が有り、山里で何にも無いが天皇陛下は鯉を召し上がるとのことで、大きな木鉢に生きた鯉を準備し、同行した料理人がさばいて料理したと聞いている。仙台の伊達家に行ったが大名行列では 600 人だったそうです。

明治天皇陛下が野点したところは江戸時代より三軒茶屋があり、その茶屋で作っていた力持ちがみどり屋の笹子餅で、鉄道が出来たときに車販するために下に下りてきた。

* 質問：それが三軒茶屋ですか 山崎様：それは真木です。んですから、

この笹筒は居間にある写真のおばあちゃんの物です。笹一の本家の「はなだや」というお家で今郵便局をしています。笹一の隣の郵便局が笹一の本家で、その「はなだや」からお嫁に来たお婆ちゃんが持ってきた笹筒で。三階松家紋が付いているがこれは「はなだや」の家紋です。着物を入れていた。いくつも笹筒が有ったけどあげてしまった。久さんは養子で入った人で、「はなだや」はもともと天野です。

秋葉講は今でもやっています、12月14日に火祭りを実施。女性だけでやっています。



写真 23 笹筒

【土間】

土間ですが、昔は裏まで突き抜けて行けるようになっていた。入口は木の戸があり、中に潜り戸がありました。戸は広げる事が出来、荷物などを入れる事ができた。宿場は家が密集していて空地がないので、山崎さんが小学校に入るまでは、父が戸を開けて軽自動車のキャロルを土間に入れていた。

この家は、大黒柱を含めいろいろなところはケヤキで出来ています。大黒柱の上部の艶がないところは女性の手が届かなかったと思われる。土間から上がったところに囲炉裏があり天井が真っ黒になっています。このあたりが昔の生活の間で、土間の外側も部屋ですべての水回り（風呂・台所・大きなかまど）があり、水回りの道路側は馬屋があった。

旅館に行くと今日はどなたが泊まるとか書いてあるものとおなじ、大名の名前を書いた札を「関札」という。

一例「内藤駿河の上」、内藤駿河の上の下屋敷が現在の新宿にあつて、四谷の城戸を出て最初の宿場が高井戸だったと思う。高井戸は距離が長すぎるので、新しい宿場を造ろうという事で、内藤家の土地を出して新しい宿場を設けた。それが今の「(内藤)新宿」です。

内藤様のお国は信州の高遠（桜の名所）です。札書？という古文書があり、スケジュールが書かれていて予め伝達があり、引継といって宿場から宿場へ書き送り、都合が悪ければ早めに申し出なさいとの事。

新宿出発⇒昼食府中⇒八王子に1泊目⇒2日目昼吉野宿（神奈川県）⇒猿橋宿に2泊目⇒昼食黒野田宿⇒石和宿3泊目⇒昼食葦崎⇒台ヶ原4泊目⇒昼食金沢⇒4泊目⇒高遠着

* 台ヶ原の北原家は内藤家の定宿だった。それで内藤家が北原家に「七賢人」の欄間を送

った。それがお酒の名前になっている。

内藤様は新宿―高遠城間約 230km を 5 泊と半日で行き来する。昔の道で 40km とかなり速い移動である。江戸時代の人は健脚です。

甲州街道を使っている大名は、甲斐は天領なので信州の 3 つの藩しかない。

飯田藩 堀氏、高遠藩 内藤氏、高島藩 諏訪氏

本陣を使うのは、大名以外には甲府勤番・代官所の役人などで利用する方は少ない。なので養蚕をして稼ぐ必要があった。

(6) 小山田信茂公首塚



写真 首塚で献杯

以上